

英文の読み方を考えるⅧ

—従位接続詞 *that* の保持と削除②—

平井 正朗

(本稿は、No. 72 に掲載された「英文の読み方を考えるⅧ—従位接続詞 *that* の保持と削除①—」の続編である。)

so[such]~ that ... 構文において、若干の制約を除いて *that* を任意に削除できる場合が多い。情報構造という視点で考えると、so[such]は「それほど」(to such an extent)の意の情報予告、*that* 節への情報展開として機能しているといえる。

(01) The disadvantages of having an appointed or elected leader are seen when the person is **so** unsure of direction **that** [ϕ] the group rambles about aimlessly; when the leader is **so** dominant **that** [ϕ] participants do not feel free to contribute spontaneously and the discussion follows a path predetermined by the leader; and when the leader is **so** unskilled **that** [ϕ] the group becomes frustrated and short-tempered.

(大阪大)

(指導者を任命したり、選挙で選んだりするという欠点は、その指導者が進むべき方向にあまり自信がないために、集団が当てもなく右往左往してしまったり、その指導者があまりにも支配的であるために集団の構成員が遠慮なく自発的に貢献しようという気にならず、議論もあらかじめ指導者によって決められた道筋をとってしまうようになり、その指導者があまりにも未熟なために、集団が不満を感じ、いらいらしてしまうような場合に見られる。)

so[such]~ that ... の場合、*that* が削除されることがある。ただし、contextをあいまいにしないために、so[such]に後続する語句が比較的短い場合に限るようである。(01)ではso ~ that ... が原因+結果=因果関係を産出しているのが読み取れる。なお、(02)のように*that*の前にcommaがあるとき、*that*が削除されることはない。

(02) In any case, if anything, the world produces not a shortage of food, but rather an abundance, **so** much in fact, **that** lakes of milk and mountains of grain are dumped into the oceans or otherwise destroyed every year.

(山口大)

(いずれにせよ、どちらかと言えば、世界は食料不足を起こしてしまうというよりはむしろ、あり余る食料を生産しており、実際、食料が非常に豊富にあるために、毎年大量のミルクや山のような穀物が海に放棄されるか、別の方法で廃棄されている。)

(03) Even Einstein, when he formulated the general theory of relativity in 1915, was **so** sure **that** [ϕ] the universe had to be static **that** he modified his theory to make this possible.

(横浜市大)

(アインシュタインでさえ1915年に一般相対性理論を明らかにしたときは宇宙が静的なものだと確信していたので、このことを可能にするために自分の理論を修正した。)

(03)では、soが最初の情報展開部である*that* the universe had to be staticの“manner”について予告し、2つ目の情報展開部*that* he modified his theory to make this possibleの“degree”についても予告する二重構造になっている。

(04) Is **it** also possible **that** [ϕ] it is important for an animal to feel that it has some purpose, **that** for social animals that purpose involves meaningful interactions with others, and **that** the self-respect gained from cooperation might be more important than getting a biscuit as a reward?

(お茶の水女大)

(何らかの目的をもっていると感じることが動物に

とって重要であり、その目的は社会的な動物にとって他者との意味のある相互作用を含んでおり、そして、協力から得られる自尊心は見返りとしてピスケットをもらうことより重要かもしれないということもあり得るのだろうか。)

いわゆる形式主語(目的語)の *it* は情報量がゼロである。その意味で、*It is X that S' V' X'* の *It* は抽象概念を表し、「そういうこと」という意味の情報予告を指示するのに対し、*that* 節は判断の主題として「どういうことなのか」という情報展開部として機能している。なお、日本語にはこのような予告と展開の構造に対応する構造がないため、情報予告の *it* を訳出してはならない。*It is*+形容詞/N+*that* 節で *it* が形式主語の場合、通例、*that* が削除されることはないが、口語体や *that*-Clause が比較的短い場合には削除されることもある。(04)では、情報予告の *It* が後方照応語句として形式主語となり、情報展開部が *that* 節であるが、さらにその内部に情報予告の *it* が埋め込まれ、*for an animal to feel ~* が情報展開部となっている。また、2つ目の *that* の前に *comma*、3つ目の *that* の前に等位接続詞 *and* があるため、これらの *that* は削除できない。

(05) *It is possible to have a 12-year-old chess champion or mathematical or musical genius, but it is unimaginable that the world's greatest expert on Socrates could be that age.* (京都大)
(12歳のチェスのチャンピオンや、数学もしくは音楽の天才が現れることはあり得るが、ソクラテスに関する世界的権威がその年齢であることは想像もつかない。)

形容詞が否定的な *connotation* を含意する場合、主文が(優勢)であるため、*that* 削除の許容性は低くなる。なお、主文と補文で意味的に衝突が生じる場合(主文述語=肯定的 *connotation*、補文=否定的 *connotation* など)、*that* が削除されることはない。

(06) *The term was as accurate as it was whimsical, for Mrs. Gandhi had made it clear that the meeting, which was held last week, was*

designed to formulate programs for economic cooperation among poor and developing nations. (山口大)

(議会の会期は、突飛ではあるが、同時に正確でもあった。というのは、ガンジー首相が、先週開催された会議が発展途上国間の経済協力計画を立案するために設けられたものであることを明らかにしたからであった。)

S+V+it+C+that 節で *it* が形式目的語の場合、口語体を除いて *that* が削除されることは稀である。(06)では、*make* の *O* の位置にあった *that* 節を文末に移動し、「ゼロ」になった *O* の位置に情報予告の *it* を組み込んだものであるが、*make* の支配領域に *it was clear that the meeting, ...* という文を組み込み、置換したものと考えてもよい。

(07) *Human beings are talkative creatures and always have been, so far as we can see. It was our urge to communicate with each other and growing ability to do so that was probably the chief factor in the development that made us different from all other animals. Leading anthropologists are now of the opinion that it was not so much aggressiveness as ability to cooperate that gave the earliest forms of man a superiority over others of ape family, and cooperation entails communication.* (愛知教育大)
(人間は今でもそうであるが、私たちの知る限りでは、今までずっとおしゃべりな生き物であった。互いの意志を伝達しあいたいというおさえがたい気持ちと、そうすることを可能にする能力が育ってきたことこそが、おそらく我々人間を他の動物と違ったものにした進化の主な要因であったのだろう。原始人が、他の類人猿より優位に立てたのは、人間が攻撃的であったからではなく、むしろ協力しあう能力をもっていたからだというのが、一流の人類学者たちの現在の一致した意見である。そして協力し合うには意志の疎通が必要なのである。)

構造が *It is+N+that+VX* の分裂文において、焦点化された *N* が *V* の *S* となる場合、*that* が削除されることはない。なお、*N* が複数名詞、もしくは

は複数概念を表す場合は分裂文であるが、単数名詞の場合は形式の *it* を伴ういわゆる〈予告⇔展開〉構造の可能性もあり得る。一般に *It is* と *that* を削除して〈完全な文〉が生成されれば分裂文と識別するが、単数名詞が強調される分裂文では、*that* 以下では *N* が1つ欠落した〈不完全な文〉、〈予告⇔展開〉構造では、*that* 以下が〈完全な文〉になることも示唆しておきたい。

(08) But we are also bound to ask why *it was that* [ϕ] Stone-Age man, having broken through the prison of his environment at a number of related points, took such a long time to make full use of his victories. (東京大)
(しかし、石器時代の人間が、それぞれ関連した多くの点で監獄のような環境を打破しながら、自分の勝ち得たものを十分に活用するのにこんなに長い時間を要したのは一体なぜなのか、と我々は尋ねざるを得ない。)

疑問詞を焦点化する分裂文(間接疑問文を含む)において、*that* の削除は任意であるが許容性は低い。

(09) Educated women around the world may agree that breast-feeding is the best way to feed their babies, but *it* is only recently *that* [ϕ] new and exciting research has uncovered some of the mysterious of breast milk. (宮城教育大)
(世界中の教育を受けた女性は、母乳で赤ん坊を育てることが最良の方法だということに同意するかもしれないが、新しく、そして興奮させるような研究が、母乳の神秘のいくつかを明らかにしてきたのはつい最近のことである。)

構造が *It is* + 副詞要素 + *that* + *S' V' X'* の分裂文で、焦点となる語句が副詞要素の場合、*that* が削除されることもある。なお、*It is* と *that* の間に副詞要素が出現するのは分裂文のみであり、〈予告⇔展開〉構造ではない。(09)では焦点となる新情報部分の副詞要素が短いため、*that* が削除されても読解過程で支障はない。しかし、(10)のように副詞要素が長い場合、あいまいさを残さないために *that* を削除することはない。また、(11)のように、*that*

の前に *comma* があるとき、*that* が削除されることはない。

(10) *It is* by what you say and how you say *it that* people judge you most often. (鳥取大)
(人があなたをしばしば判断する基準は、話す内容とその話し方である。)

(11) *It is* by writing, even more than by speech, *that* you actually master your material and extend your own understanding. (神戸商大)
(実際に自分の資料を使いこなし、理解を深めることは、話すこと以上に書くことによってなされる。)

It is not until[*till*]+*S' V' X' ... that*+*SVX* では、*that* が削除されることは稀である。

(12) *It was not until* the formation of a U. S. agency in charge of national parks in 1916 *that* [ϕ] the concept of managing parks so as to maintain their natural qualities was accepted. (東北大)

(1916年に合衆国で国立公園を管理する庁がつくられて初めて、自然のすばらしさを維持するために公園を管理するという考えが受け入れられた。)

この構造は、よく「…をして初めて～」と機械的に覚えてしまいがちであるが、*S+V not+X ~ until*[*till*]*S' V' X'* の副詞節を *It is ~ that* に組み込み、情報の原則に従って、否定辞 *not* を繰り返して生成された文としてアプローチすれば、副詞要素を焦点化する分裂文の学習との相乗効果が期待できる。

(13) *It's not that* common sense should have any more authority in psychology than it does in physics or astronomy. But this part of common sense has so much power and precision in predicting, controlling, and explaining everyday behavior, compared to any alternative ever entertained, that the chances are high that it will be included in some form in our best scientific theories. (京都大)

(常識が物理学や天文学における以上に心理学において権威をもってよいはずだということではない。しかし、この種の常識は今までに考えられた他のどんなものと比較しても、日常の行動を予測し、規制し、説明する際にとっても強力で正確であるために、現代の最高の科学理論のなかに何らかの形で含まれる可能性が高いのである。)

It is not that+S' V' X' の場合、that が削除されることはない。that が削除された場合、It is not+N [先行詞]+[関係詞削除]+V' X' [S' V'] や It is not+N+p. p. と同形になり、あいまいさが発生する可能性があるからである。なお、that 節を文頭に移動した That S' V' X' is not. は非文法的である。It is not that+S' V' X' は、It is that+S' V' X' の否定命題を明示するものであるが、not を強調する分裂文と考えることもできる。この場合、that の削除は不可であり、not を類義語の never と交換することはできない。また、that 節を文頭移動することもできない。以下に、前回の考察も含めてリーディング・ストラテジーを提示する。

■ 従位接続詞 that の保持と削除

- (I) 文構成要素を満たす「完全な文」を支配する接続詞 that が文頭にあれば、支配領域を検索し、V が後続すれば文全体の中で S, SV が後続すれば倒置された O として処理することができる。なお、S の場合、〈予告⇔展開〉構造の It ~ that ... 構文に置換することもできる。
- (II) 他動詞に that 節が後続すればその支配領域を O、自動詞に後続すれば C と識別することができ、命題を把握することができる。また、that が削除された場合や that の前後に M が挿入された場合も同様に処理することができる。なお、1 人称+思考動詞(I think など)が主文の位置から遊離し、文中もしくは文末にある場合、副詞要素として処理することができる。さらに、解釈にあいまいさを残すと考えられる場合、that を削除せず、context が明確な英文を書くことができる。
- (III) N+that 節を見れば、接続詞 that が同格名詞節を導く従位接続詞、関係詞節を導く関係副詞、あるいは関係代名詞なのか識別し、文全体を適

切な日本語に置換することができる。また、従位接続詞や関係副詞が削除された場合も同様に処理することができる。

- (IV) 「完全な文」に後続する that 節を見れば、M として把握し、「感情の判断」なのか「判断の根拠」なのか識別することができる。また、that が削除された場合も同様に処理することができる。

■ so ~ that ... 構文における that の保持と削除

so ~ that ... 構文を見れば、〈予告⇔展開〉構造を予測し、接続詞までの sense group が SVM, SVC, SVO なのか指摘することができる。副詞節として機能する that の支配領域の命題との相関関係を「因果・程度・様態」などの視点から分析することができる。

■ It ~ that ... 構文における that の保持と削除

- (I) It is+(分詞)形容詞/N+that+S' V' X' を見れば、It を情報予告、that 節を情報展開部ととらえ、〈予告⇔展開〉構造を把握することができる。
- (II) S+V+it+形容詞/N+that+S' V' X' を見れば、SVOC の文型を予測、that の支配領域を検索し、〈予告⇔展開〉の情報構造のみならず、埋め込み構造も把握することができる。また、that が削除された場合も同様に処理することができる。
- (III) It is+副詞要素/N+that ... を見れば、分裂文を予測し、いわゆる〈焦点⇔前提〉の関係を把握することができる。また、that が削除された場合も同様に処理することができる。なお、It is+単数 N+that ... の場合、分裂文なら that 以下に N が 1 つ欠落した〈不完全な文〉、〈予告⇔展開〉構造なら that 以下は文構成要素の欠落のない〈完全な文〉になることを識別し、分析することができる。さらに、It が前方照応語句の指示代名詞、that が関係代名詞、単数 N が先行詞である構造との差異を指摘することもできる。

(龍谷大付属平安中高等学校校長補佐)